



瑞山会会報

No.45

編集発行
名古屋市立大学
経済学部同窓会
瑞山会編集部

<http://www.asahi-net.or.jp/~IW3K-KJM/zulzan.html> 平成21年7月31日発行

瑞山会創立30周年をむかえ、記念総会を盛大に開催



我が経済学部同窓会「瑞山会」は創立30周年をむかえ、昨年9月14日(日)記念総会・特別講演会を名古屋観光ホテル「那古の間」で開催した。

第1部は午後2時半より通常総会が開かれ、昨年1年間の事業報告、決算報告、平成20年度予算案、役員承認の各議案が提案され、審議・承認がなされた。第2部は今回の目玉で

ある「特別記念講演会」で、(株)名古屋銀行会長 加藤千鷹氏による「東海経済の動きと金融業の歴史」、そして東京大学大学院経済学研究科教授 伊藤元重氏「日本経済の行方」がおよそ2時間近く途中休憩を挟んで行われた。(講演会の要旨は2ページ以降に掲載)この講演会は瑞山会会員だけでなく名市大在校生や新聞等の告知を通して広く一般の聴講者も募集し、300名近い人数が参加という盛況ぶりを示した。第3部の懇親会は来賓として西野名古屋市立大学学長を始め星野経済学部長、医学並びに薬学部同窓会会長、看護学部総務理事、名市大後援会副会長、学部先生方また退官された先生方、同窓生ら総勢120名余りが出席し、1時間半のパーティーは熱気のうちに幕を閉じた。

■■■■ 瑞山会創立30周年記念総会開催にあたって ■■■■

瑞山会 会長 前田勝昭

昭和53年に経済学部同窓会「瑞山会」が設立され、今年で早30年となりました。その間、我が同窓生も7,500名余に達し、一大組織として存立しております。同窓生の皆様方は、大学ご卒業後多方面でご活躍され、各界の重要なポストに就かれ企業、地域の指導的な役割を果たされています。

今回瑞山会創立30周年の節目を記念して、平成20年9月14日に名古屋観光ホテルにて記念総会、懇親会を同窓生120名余の皆様にご参加頂き、盛大に催すことができました。また、記念講演会に株式会社名古屋銀行 加藤会長、東京大学大学院 伊藤教授のお二方をお招きし、100年に一度といわれる世界金融危機、グローバル同時不況に対する対処の仕方等のお話をいただきました。

この記念講演会是我々同窓生のみならず、広く一般の皆様方にもご参加頂き、280名余の方にご聴講頂きました。このような盛大な会が開催出来たのも、同窓生の皆様方のご協力の賜と心より感謝いたしております。

現在の大不況はこのまま状況が悪化していけば、日本は脱出口が見いだせないまま泥沼のように暗い社会状況に陥ることになるとも言われております。このような中、ともすればあきらめの心境になりがちですが、人との出会いを大切に、互いに協力し合うことにより、なんとか打開して頂けるものと信じております。そのためにも、我が瑞山会が今後ますます発展し、より立派な同窓会となりますことを祈っております。

瑞山会創立30周年記念講演会 要旨

演題1: 「東海経済の動きと金融業の歴史」加藤千磨氏

本日は、中国ビジネスを20年来やっておりますのでその経過をお話した後で、この地域の「モノ作り東海」と言われるのはどうして現在の強い企業ができたのかというお話と、金融の立場から戦後の金融がどのような動きをして今日（こんにち）あるのかということをお話させていただこうと思います。

私の生い立ちは1938年、今の中国遼寧省大連市に生まれました。そこは地理的に遼東半島の先にあり、先端の旅順とか大連だけが関東州と呼ばれ、内陸側は満州になるわけです。昭和20年に日本が戦争に負け、ソ連軍がすぐここを占拠して私達日本人をなかなか帰しませんでした。21年の秋からやっと帰しはじめて私達は22年に日本の内地へ帰ることができました。

こういった満州なり関東州から帰ってきた人達というのは大変たくさんいて、それらを扱った幾つかの本があります。なかにし礼の「赤い月」、愛新覚羅浩さんが書いた「流転の王妃」、「お婆あちゃんの秘密」松原きくこ、「満州少国民の戦記」藤原作弥（さくや）、山崎豊子の「大地の子」など機会がありましたらお読みいただきたいと思います。

次に中国ビジネスについてお話ですが、南通市というのは経済開放都市の一つです。名古屋銀行は1984年に進出し、85年に北京にて業務協定を南通市と結ぶという許可を結び、そして86年に駐在員事務所を設置しました。以来20年以上南通市と繋がりががあります。現在まで約90社程の中部地区の企業を南通市に御紹介し、合弁とか合作とか独资（どくし）とかそういう形態で中国ビジネスを展開しています。南通市はこれからも発展して行くのではないかと私は思っています。

地元の名古屋圏で江戸から明治に時代が移るにあたっていろいろな金融業の変化のお話をしたいと思います。もともと尾張藩の為替方として伊藤次郎左衛門氏が金融業を行っており、明治になり政府が旧武士に金録公債を発行しその取扱いをその為替方が行い、それが後の伊藤銀行になりました。他に外様派の銀行が愛知銀行、滝系が中心になって作った銀行が名古屋銀行などが設立されていました。第二次大戦中にこれらの銀行は政府の方針で合併を行い東海銀行になり、いま私が所属している名古屋銀行は当時の東海銀行とはなんら関係はありません。では当行の成り立ちはと申しますと、創業者が庶民金融の一つの「みなし無尽」という制度を作り、戦後、昭和26年に当時の大蔵省の指導の元に相互銀行に転換していったわけです。

もう少し幕末から維新に関わるところのお話ですが、尾張藩はどうして力をつけてきたかということですが、私は藩内にあった土着派と近在派と外様派の三つのグループが切磋琢磨してこの経済圏を支えてきたというのではないかと思います。一つはこの侍達が余暇を使って副業に就くことが許されていた。二つめは官との繋がりが少なかったために逆に自分達で何かを心掛けなくてはならないという気が非常に強かった。三つ目は、江戸、東京のように財閥となるような三井、三菱のような当時の産業資本と結びつきが無く、独自に自分達の産業を掘り起こして行ったこと、つまり中央政界との繋がりが無かったということが逆に強い力を作ってきたのではないかと思います。

話は戦後になりますが、1950年朝鮮動乱が起き、これでこの地域の企業が大変潤おう事になりました。トヨタは会

社経営の危機を脱し、大同特殊鋼、豊和工業などいろいろな意味で恩恵を受けて発展しました。これらは尾張藩の時代から独自の産業を育ててきた下地があったからです。

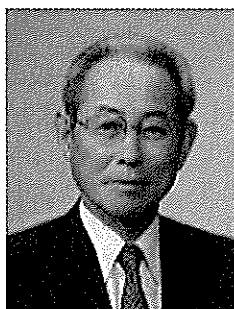
そして戦後の金融体制という話ですが、「護送船団方式」という金利を規制して弱小の金融機関も含めて国内の銀行を全て守ろうという仕組みがあります。これはしばらく続きましたが、結局80年代に入りアメリカからの強い要請で自由化を迫られ、段階を経て規制が緩やかになり、94年10月には普通預金を含めて金利は全て自由化となりました。また業務の自由化もされました。

次にプラザ合意と円高についてですが、本来であれば円高不況では無かった。生産コストの削減に努力して大変好調であったにもかかわらず不況だということで金利政策を誤ったのではないかと。というのは、アメリカからの強い要請でドルの下落を防止するという意味で引き続き金利低下を要請され、政府はこれを上げることができなかった。これがひとつの大きな問題ではなかったかということです。

そして1991年にバブルが崩壊しますが、銀行や証券も大変大きな問題を起こして貸し出しが不良債券化していった。イトマン事件等が起きたわけです。特に大きな事件は住宅金融専門会社、いわゆる住専7社問題でした。国が6850億を投入しましたが、その後いろいろな金融機関の資金援助に使われて行くというようなことが行われました。同時に銀行はどんどん合併していくようになりました。

バブル崩壊の他の問題は、銀行の株式の保有制限が行われたことです。日本の銀行も企業も外資に持って行かれる危険は十分にあるのではないかとこの事は非常に心配されるものです。また、2002年9月に金融大臣に就任した竹中平蔵氏によって不良債券の比率の是正を8%から4%にするという強硬な策が実行され、いわゆる「貸し剥がし」が起き企業が倒産していきました。こういった荒療治が必要だったのかどうか、潰さなくてよいところまで潰したのではないかとこのことを感じました。また東西冷戦が崩れて軍備に金を貸す必要が無くなり、米ソがITや東南アジアなどに投資の重点を置いたり、今まで日本が輸出できる品物を作っていたのが東南アジアに移って日本の輸出力が落ちてきたということに繋がっているのではないかと。そういうことで大変厳しい時代になってきたということです。やっとバブルも落ち着いたと思った矢先、また去年からアメリカから始まるサブプライム問題を含めた証券の投資家に大きな問題が起きて苦戦をしています。したがってもうしばらくは金融間での合従連衡が進んで行くのではないかと、ソフトアライアンスという結びつきで協力しようとする金融機関が出てくるのではないかと思っています。（了）

加藤千磨氏プロフィール



株式会社 名古屋銀行 取締役会長
1938年遼寧省大連市生まれ。
1963年慶応義塾大学法学部卒業、同年東海銀行に入行。
その後、名古屋相互銀行で役員等を歴任し、現在は名古屋銀行取締役会長に就任。名古屋商工会議所常議員、中部経済連合会理事、中部経済同友会特別幹事などを務める。

演題2：「日本経済の行方」伊藤元重氏

今経済は非常に大変な状態で、これからおそらく来年まではほとんどの専門家が景気の回復は無いどころかまだ悪くなるだろうと予想しており、経済は波がありますのでそこはそこで覚悟を決めておく必要があると思います。

まず現在の国内の状況は ちょっと滑稽な感じもします。景気対策として行わなければならないことはむしろ景気をよくしようという大それたことでは無く、こういった厳しい時に弱者を守って行くのか、あるいは中小企業を守って行くのかということに最初から絞っていく必要があります。いずれ世界経済は復活すると思いますから、そうした時に乗り遅れないようにきちっと先の視点を見て策を打っておくことが必要です。

今日は10年20年のトレンドでいま経済に何が起きているのかという話をさせていただいて、2つ目にそれを受けて今何が難しい問題として出てきているのかという景気の話をし、最後に日本の課題、可能性みたいなものをお話させていただきます。

아이폰を持っていますが、この 아이폰を含めて中国には世界的なメーカーの製品を代わりに生産するいわゆる「代行型」の生産をする工場が多数あります。その一つにフォックスコンという会社がありますが、従業員が一つの工場に27万人居ます。そこではソニーの製品でバイオやプレステーションポータブル、そしてブラビア等を作っています。ソニーや東芝はどんどんそういうところへ生産を移してきます。世界の他のパソコンメーカーも生産を委託していて電気屋さんに行くとどのパソコンを買おうか、HPにしようかデルにしようかソニーにしようか迷っても全く意味はありません。同じ会社で作っているからです。携帯のノキアとモトローラもフォックスコンが組み立てている。このように物凄い勢いでグローバル化が進んでいる。さらにフォックスコンはそれまで日本の部品メーカーが作っていた部品まで、さらに安価で生産できるようになり国内メーカーのシェアを奪ってしまった。だからそれ聞いてビックしました。ただ単にモノを組み立てる会社じゃなくてそんなこともできるようになった。

国際化していてそれが結果的に何を起こしたかということこの8年間で見ると世界の一人当たりの所得は過去40年間で最も早い勢いで成長しました。輪をかけて「グローバルマネー」という投資資金が世界中を動き回ってそれが結果として成長を支えたのです。

最近では第二次大戦後の人口増化した頃に生まれたベビーブーマー達の「ベビーブーマー資金」と言うものが溢れています。これがよりよい運用を求めて世界中を動き回っています。したがって投資銀行にとってみるとお金を集めるのはむしろかしくない。大事なことはそれをどうやって運用するかということです。ですから物凄い勢いで運用競争が起こっています。金融機関のずるいところはうまい魔法の言葉を生み出して投資を誘うわけです。この10年間ずっと不動産ブームでお金流れ、この数年少しへたり始めたわけです。不動産の次は何を考えているかと言うと、石油と食料、資源だと言われます。

チャーチルという有名なイギリスの政治家が面白いこと言っています。「民主主義というのは酷い制度だ。いろんなことがたがたやってなんにも決まらないじゃないか」と。だから民主主義より良い制度が出てくるまでこれであきらめるしかないんです。資本主義も同じです。なにせ50億人の人が世界中でこの地球の上でうごめいているから多少政府の人が経済管理をしようとしてもおかしくなるだけです。ですから

こういう中でやっぱりつきあわなくてはいけないわけで、今年から来年、場合によってはもう2年くらい世界経済全体非常に厳しい方向に行かざるを得ないだろうと思います。

今なにが起こっているかという一番分かりやすく見ていたただくにはアメリカを見るとよいのですが、2000年から2007年までアメリカは先進国の中でもっとも早い勢いで成長を遂げました。そこで一つには不動産バブルが起きたのです。アメリカの住宅価格はこの10年に約倍になりました。そしてこの3年で約2割落ちたんです。日本の経済規模くらい減っています。だからアメリカの経済がおかしくなるのは当然なんです。

ところがアメリカの経済の面白いところは、それが経済が悪くなってもいろんな形で安全弁が働いています。サブプライムローンといって証券化して世界中にばらまいているわけですから、他の人に全部つけを払ってもらって自分達は傷が少し浅かったわけです。そうは言ってもアメリカの金融機関は物凄い損をしているわけです。シティバンク5兆円とか、今はリーマンブラザーズがどうなるかと言うんですが、フレディマックとかファニーメイとか500兆円の資産規模を持っているアメリカの公的金融機関が物凄い損失を出している。そこに損失を溜め込むことによって一般社会に波及するのを押さえています。

第二のバブルは単なる不動産の問題ではなくてこの間に金融バブルになった事です。この10年はお金が増えて、専門的な用語を使うと「コマーシャルペーパー」というのを使って安い金利でお金をたくさん買ったのです。それをサブプライムローンに入ってくる投資対象に対して投資をした。こういうのを専門用語で「レバレッジが効く」と言いますが、これが行き過ぎて今どんどん収縮しているわけです。素直に少しづつ収縮してくればいいわけですが、急激になると経済は大変なんです。みんなが心配しているんですけども今アメリカ経済で起こっていることは必要な調整をしているんです。

もう一つの問題はアメリカの貿易赤字です。輸入が輸出の倍くらいある。これまで日本や中国やあるいは産油国が、アメリカの国債を買い続け、つまりアメリカの借金を持ってやって、その分アメリカの消費が増えて来ました。これももう持たないわけです。アメリカの輸入が減るのはどういうことかということドルの暴落なんです。しかし 不動産が下がること。金融が小さくなること。ドルが下がることは良いことなんです。ただ問題はそれが暴落したら困るんです。だから暴落しないようにいかにスムーズにドルが下がっていくかということをやれるかということがこれからの世界経済のポイントです。

ただアメリカ経済は強いんです。なぜなら将来アメリカ経済を支える中国系インド系を含めた人口が増えるからです。移民が初めに買うのは車と家ですから長い目で見たらアメリカは不動産市場は又破竹の勢いになるでしょう。ただ問題は経済はそう予想通りいかないですから、悪い状況が長引くこともあるし、想像以上に早く解決することもあるでしょう。

では日本はどうするか。このまま行ったらどうにもならない、酷い経済です。何も決められないんですから。どんどん財政赤字が増えてしまう。これからどんどん医療や年金が増えてくるわけです。その時皆さんはどういう社会を望みますか？現在は財政が増えないので 日本は医療は安かろう悪かろうの方向に行っているわけです。このまま行ったらあと5年すると惨澹たる状況です。国民は消費税払っても医療と年金をしっかりとってほしいと思っっているはずなんです。でも

その一歩が踏み切れないわけですからやはり酷い状態なんです。

そこで日本の将来をどこに託すのか一つのキーワードが「円高」です。これまでどんどん円安になって、今20年でもっとも円安なんです、その結果日本は物凄い貧しい国になっています。我々一人の所得はシンガポールに抜かれ、もうアジア1位じゃない。アメリカの3分の2以下です。世界で18位です。どうして円安かと言うと外から見た日本は全く話にならないからです。アフガン問題などでぐずぐずして世界から取り残されて相手にされていないんです。

いろいろ日本の周りで起こっていますが、しかし今はチャンスなんです。相対的に世界の通貨の価値が下がって消去法ではあるが結果的に円が上がってきている。別に日本が改善してはいないが、20年来の低い水準から少し上がってきただけで日本にとってどういう意味を持っているかと言うと、2つあります。

ひとつは輸出企業はどんどん国際化して、大事なところは国内に残すんですけど、そうやっていく事。そしてそれと入れ代わる形で国内で内需型の産業を広げていかなければいけないという事です。それが何かと言うと医療だとか教育だとか住宅だとか、あるいはいろいろな流通だとか不動産などです。

例えば医療みたいな産業はものすごいチャンスがあるでしょう。ほんとは成長産業です。武田薬品はアメリカの市場へ進出している。市場が大きいからです。だからそういう意味ではそういうところをどうやって広げていくかということが物凄くチャンスがあります。

もう一つ大きなチャンスは教育です。資源は無い、人口も少し減っていくと、高度経済成長期のように企業がどんどん設備投資をして工場を作っていくってこれから20年30年後に経済を支えるのは無理でしょう。20年30年後に経済を支えてくれるのは教育しかありません。21世紀の今は我々は若者の能力にどんどん投資しなくてはならない。ただ国や役所に任せるのではなく、自分のお金を自分の子供や自分の孫にどんどん使って教育するようにならないといけない。

例えば日本の医者不足を解決するには医学部を倍にしてそのかわり授業料を今の10倍取って増やせばいい。彼等は将来稼げばいいわけです。では貧乏な人はどうすればよいか。奨学金制度を作ればいいわけです。そういうところにお金が行くことによって日本は活性化するしか無いと思います。

最後に日本の住宅は非常に重要です。人口が減ってきて高齢者が増えてきた中で街の姿を変える必要がある。病院に近かったり生活に便利だったりする高齢者の人口の大移動が必要なんです。また日本の個人金融資産1500兆円が75%は60才以上の方が持っている。使わないで殆ど残して死んでいる現状です。残し過ぎですからもっと使えばいいとは思いますが、自分が使うのがいやだったら社会に寄付してもいいかも知れません。

住みやすいとかこういったことをやりやすい仕組みを作ると日本の経済もずいぶん良くなると思います。これから2、3年の間にかなり社会が大きく変化して次の世界の景気拡大のステージの中で日本がどうやってうまく利用しながら拡大していくかということがやっぱり問われていると思います。(了)

伊藤元重氏プロフィール



1951年静岡県生まれ。
東京大学経済学部経済学科卒業。
米国ロチェスター大学大学院経済学研究科博士課程修了。
その後、米国ヒューストン大学経済学部助教授在任中に米国ロチェスター大学経済学博士号(Ph.D.)取得。
1982年東京大学経済学部助教授を経て、1993年同教授となる。
現在、東京大学大学院経済学研究科教授

▲▼▲▼ 記念総会開催に寄せられた会員からの声 ▲▼▲▼

(返信葉書、ホームページ掲示板で寄せていただいた、たくさんの皆さんからの声の一部です。掲載順不同)

●まずは瑞山会設立30周年おめでとうございます。振り返りますと、昭和40年代以降の時代変遷の中で、海外拠点の設置、拡充、為替変動、貿易摩擦等数知れない、中には予測もつかない諸問題を経験してきました。経済学部で学んだことが時に役立ちました。次する発展をはかるべく瑞山会及び経済学部には微力ながら今後も協力していく所存です。
(鈴木博 1期生 松井ゼミ)

●記念総会まで開催してしまうという活発な活動に感心しています。瑞山会の案内をいただく度に私は名古屋市立大学に在学していた事を改めて確認している次第です。卒業生として恥じる事の無いよう精一杯残りの人生をやっていきたく思います。(種村秀実 15期生 神山ゼミ)

●創立30周年おめでとうございます。団塊世代の退職で小生も無職になりましたが、寂しい気がすると同時に無事勤め上げたことに安堵しております。これからは時間に縛られない自由を楽しみたいと思います。走り続けてきましたがこれからは周りを見ながら歩いていきます。
(木村好広 3期生 藤田ゼミ)

●30周年おめでとうございます。一昨年昭和54年前後に卒業したバトミントン部の集まりがありました。30年ぶりくらいで顔をみても誰か判らなかつたのが、5分くらいしゃべっていると昔と全然変わっていないなと感じるから不思議なものです。記念総会行ってみたい気がします、準備の方大変でしょうががんばってください。
(中川良司 12期生 芝原ゼミ)

●30周年を祝し一言。小職は平成14年(2002年)に理事に就任。それまでは同窓会会報の送付を受ける身であったが決して同窓会に関心の高くない会員ではなかった。理事に就任して気づいたことは、役員の方々のご苦勞の多さである。小職は50歳前後からいろいろな幹事役を引き受けている。瑞山会から支部助成金を受けている瑞鳳会(トヨタ自動車株式会社における名古屋市立大学出身者の会)、自動車部OB会もその一つである。その中で幹事として残念なことは、案内を出しても返事のないこと、反応のないことである。行事の案内をしても参加するのしないのかの返事が来ない、当日の準備の関係もあるので反応のない人には電話とかをすることになるわけだが、参加してくれることが最も好ましいことではあるが、それぞれ都合があることは理解できるので全員参加は難しいことは幹事としても承知の上。参加しない場合でもその旨の返事があると感謝する次第である。30年を迎える瑞山会、会員7000余名の皆さんが全員同窓会に関心を持つことは不可能に近いかも知れないが、一人でも多くの人が関心を持ち、諸活動に参加してくれることを切に願うものです。理事の一人として微力を尽くしたいと思う今日この頃です。(村井清 6期生 山本ゼミ)

同窓会ホームページにて記念総会の詳しい特集ページを開設してあります。総会の式次第、講演録、スナップ写真などが御覧になれます。

●平成19年度決算報告

第30期貸借対照表

(平成20年3月31日現在)

(単位：円)

借方	金額	貸方	金額
普通預金・現金	14,963,828	名簿発行引当金	1,600,000
前払費用(注1)	52,500	未払費用(注2)	21,420
りそなMMF	6,014,023		
貸付信託	6,560,000	運営基金積立金	27,997,993
金銭信託	2,029,062	(うち当期剰余金)	(872,929)
合計	29,619,413	合計	29,619,413

(注1) 廣済堂 会員データ管理 平成20年度分

(注2) ホームページプロバイダー費用 平成19年度分

第30期収支決算書

(自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)

(収入の部)

(単位：円)

勘定科目	予算額 (A)	実績額 (B)	差額 (A)-(B)
会費収入 (235名分)	4,700,000	4,700,000	0
各部預金利息	10,000	25,390	△ 15,390
運営基金利息	20,000	42,843	△ 22,843
名簿売上	0	16,000	△ 16,000
その他収入	0	5,000	△ 5,000
収入計	4,730,000	4,789,233	△ 59,233

(支出の部)

(単位：円)

勘定科目	予算額 (A)	実績額 (B)	差額 (A)-(B)
名簿発行引当金	800,000	800,000	0
名簿管理費用	70,000	58,170	11,830
名簿発行費用	0	0	0
会報発行費用	800,000	692,083	107,917
総会費	1,500,000	886,885	613,115
事務費	300,000	364,797	△ 64,797
通信費	150,000	101,282	48,718
事業運営費	780,000	713,087	66,913
名市大振興基金(寄付金)	0	300,000	△ 300,000
予備費	330,000	0	330,000
支出計	4,730,000	3,916,304	813,696
当期剰余金	0	872,929	△ 872,929
合計	4,730,000	4,789,233	△ 59,233

●平成20年度 予算

第31期収支計算表

(自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)

(収入の部)

(単位：円)

勘定科目	予算額 (A)	前年実績額 (B)	差額 (A)-(B)
会費収入 (新入会費)	4,820,000	4,700,000	120,000
各部預金利息	30,000	25,390	4,610
運営基金利息	50,000	42,843	7,157
名簿売上	0	16,000	△ 16,000
補助金収入	0	5,000	△ 5,000
基金取崩益	2,000,000	0	2,000,000
収入計	69,00,000	4,789,233	2,110,767

新入会費・予算額は、平成20年4月入金額 (241名分)

(支出の部)

(単位：円)

勘定科目	予算額 (A)	前年実績額 (B)	差額 (A)-(B)
名簿発行引当金(注1)	800,000	800,000	0
名簿管理費用(注2)	70,000	58,170	11,830
名簿発行費用	0	0	0
会報発行費用(注3)	800,000	692,083	107,917
総会費	3,500,000	886,885	2,613,115
事務費	480,000	364,797	115,203
通信費	150,000	101,282	48,718
事業運営費(注4)	880,000	713,087	166,913
名市大振興基金	0	300,000	△ 300,000
予備費	220,000	0	220,000
支出計	6,900,000	3,916,304	2,983,696
当期剰余金	0	872,929	△ 872,929
合計	6,900,000	4,789,233	2,110,767

(注1) 平成21年12月名簿発行に関わる同窓会負担予定額の1/4計上

(注2) 個人情報管理費用

(注3) 会報1回発行費用

(注4) 支部補助金、OB表賞制度 等

【2008年度 役員名簿】

理事

(庶務部)

●会長

前田 勝昭 1期生 (岡崎)

●副会長

多和田 眞 4期生 (岡崎)
 佐藤 克己 8期生 (岡崎)
 服部 篤典 18期生 (安藤)

●庶務部長

伊藤 孝 6期生 (山本)

●副庶務部長

渡辺 尚泰 3期生 (柴田)

●庶務部員

近藤 常夫 1期生 (平田)
 鬼頭 等 3期生 (岡崎)
 八木 得三 5期生 (山本)

荒深 美和子 9期生 (木村)

倉地 弘美 14期生 (松永)

木村 剛 17期生 (辻)

吉田 和男 20期生 (國村)

田中 多聞 31期生 (程島)

次ページへ続く

————— (編集部) —————

- 編集部長
榊原 茂 1期生 (松永)
- 副編集部長
中村 英利 20期生 (西田)
- 編集部員
伊藤 幸雄 5期生 (妙見)
鈴木 正彦 7期生 (芝原)
田中 喜夫 7期生 (岡崎)
寺沢 賢治 11期生 (牛嶋)
水野 誠 13期生 (宮川)
松川 倫典 16期生 (塩見)
湯浅 伸庸 18期生 (安藤)
鈴木 正 19期生 (星野)
石川 勇治 21期生 (上村)
柴田 光晴 22期生 (神山)
家田 嘉人 23期生 (星野)
佐藤 哲也 24期生 (宮川)
高山 浩之 26期生 (國村)
若松 理恵 26期生 (國村)
清水 綾子 30期生 (多和田)

- 杉田 明子 30期生 (安藤)
- 奥村 光輝 31期生 (多和田)
- 西脇 桂 33期生 (安藤)
- 松尾 裕次 34期生 (森田)

————— (事業部) —————

- 事業部長
逸見 和弘 1期生 (松永)
- 副事業部長
杉浦 晴義 5期生 (松永)
- 事業部員
都島 忠比古 3期生 (山本)
浅岡 邦康 3期生 (傍島)
木村 新作 5期生 (岩橋)
村井 清 6期生 (山本)
細野 博行 6期生 (山本)
岡田 美津雄 10期生 (中居)
村岡 範久 15期生 (松井)
畔柳 一 19期生 (星野)
石川 常彦 23期生 (國村)

————— (名簿部) —————

- 名簿部長
中村 正治 5期生 (木村)
- 副名簿部長
児島 完二 22期生 (妙見)
橋本 光生 18期生 (醍醐)

————— (会計部) —————

- 会計部長
鈴木 博 1期生 (松井)
- 副会計部長
児島 和世 22期生 (國村)

監事

- 粟野 泰次 1期生 (大山)
- 松原 隆二 4期生 (中居)

緊急アンケート 皆さんの御協力をぜひお願いします！

同窓会名簿管理システム (仮称) の導入に関するアンケート

名古屋市立大学は平成22年に開学60年を迎えるにあたり、記念事業の一つとして「同窓会名簿管理システム (仮称)」の導入を計画しています。これは大学が運営するネットワークシステム (管理・運営は大学、サーバーは外部委託会社) から卒業生全員に対してID・パスワード及び生涯メールアドレスを発行し、卒業生間のオンラインネットワークを運営して、例えばデータベース化した名簿の登録・変更や大学・同窓会からのメールマガジンの配信などのサービスの提供がされるというものです。このシステムは全ての学部卒業生対象です。

瑞山会では会員の皆さんにこの大学の計画するサービスに対する簡単なアンケートを実施します。皆さんの御意見はまとめた後、大学へ伝えることになっています。

右の質問に対して同封の返信葉書の回答欄に御記入の上御返信下さい。

【質問1】

同窓会名簿管理システム (仮称) は御自分で登録しなければID・パスワード及び生涯メールアドレスは取得できませんが、あなたはこのシステムが稼働したら参加 (ネットを通じて登録) しますか？

- 1) はい 2) いいえ

【質問2】

システムについて御意見があれば簡単にお書き下さい。

皆さんから多くの御意見をお待ちしております。

このアンケート内容について御質問などがありましたら瑞山会HP webmaster 服部 (18期生) zuizan30@infoseek.jp までお問い合わせ下さい。

〈 理事会だより 〉

平成19年度、第40期卒業生の成績優秀者に送られる「瑞山会賞」の受賞者は以下の通りです。おめでとうございます。なお3月25日に謝恩会場にて前田会長より賞状、記念品が手渡されました。

- 成績上位者 扇谷 増澄 (前田ゼミ)
- 田口 友里子 (木村ゼミ)
- 前田 康晴 (前田ゼミ)
- 森山 京亮 (佐々木ゼミ)

卒業論文優秀者 大仲 麻衣子 (星野ゼミ)

新学部長に就任して

名古屋市立大学経済学部長

星野優太

瑞山会の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃から母校のために何かとご尽力を賜り心より厚くお礼を申し上げます。

経済学部は今年創立44周年を迎え、またこれまで8000名近くの卒業生を送り出してきました。卒業生の皆様には、名古屋・東海地域を中心にさまざまな分野でのご活躍のことと存じます。

さて、経済学部の基本的な理念は、広い視野を持ち、経済学と経営学の諸理論に精通し、各自が直面する経済・経営上の諸問題に柔軟かつ的確に対応できるような人材を社会に送り出すこととあります。それを達成するために、経済学部では、(1)経済学および経営学を体系的に理解し、それらを実践に結びつける能力を備えた人材の養成、(2)経済学および経営学に関する専門の学習による問題解決能力を有する人材の養成、という2つの目的を掲げています。

近年、大学を取り巻く社会状況も急激に変化してきており、そのために学部は2007年4月から定員を200名から230名に拡大し、従来の経済学科と経営学科の2学科体制から「公共政策学科」「マネジメントシステム学科」「会計ファイナンス学科」の3学科体制に移行しました。公共政策学科では、市場経済の働きを理解したうえで、国や自治体の政策の評価や、今後の政策のあり方などを考える実践的な政策パーソンの育成を目指しています。マネジメントシステム学科では、様々な組織のマネジメントの仕組みについて、経営学、制度・歴史の二つの視点から学び、実際の組織の経済行動について問題解決が行える人材を目指します。会計ファイナンス学科では、会計、ファイナンスや金融工学の領域を学びながら、グローバルな視野を養うとともに、それらを総合的に活用できる専門職業人の養成を目指しています。また、資格対策室とデータ分析室を設け、学生の教育を支援しています。

他方、大学院も、2008年度からは学びやすさに力点をおいた改革をおこない、この4月からその制度がスタートしました。

その主な点は、従前の経済政策分析専攻と日本経済経営専攻を「経済学専攻」と「経営学専攻」に名称変更するとともに、その専攻の人材養成目的に沿えるよう教員構成および科目構成を変更したことです。本研究科では、昼夜開講制や研究指導を院生の希望する時間帯で実施する制度を導入するなど、キャリアアップを目指す社会人に対する研究教育体制も十分整えています。



2006年4月から法人化し、教育、研究、社会貢献等で既に多くの改革が始まっております。大学の中期計画ごとに一つの区切りを6年としますと、今年は第2期目に入ったと捉えることができると思います。近年、法人化後の国公立大学において社会貢献の重要性が大きく取り上げられておりますが、大学の最大の貢献はやはり学生の教育にあります。とりわけ、当大学のように地域性の高い大学にあっては、当該地域の学生を教育し優秀な人材として社会に送り出すことが重大な使命といえます。わが経済学部では経済学や経営学や会計学といった高度の専門知識を学ぶことを通して、これからの地域経済の発展に中心となって寄与できる人材、企業や自治体の未来を切り開くリーダー、そして社会を平和で豊かにする有為な人材、として育つことが期待されます。

瑞山会の皆様には、これまでもさまざまなご支援を頂いてまいりましたが、今後とも就職支援など後輩のためにご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。私共も、教員、学生、卒業生、さらには学生や卒業生の父母も含めた志を共にする人々との協力が必要になると考えており、そしていま以上に大学と同窓会との密接な連携をしていきたいと思っております。何卒、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

経済学研究科(学部)人事異動

【平成20年】

■平成20年3月31日付退職

- ・教授(経済学専攻) 内藤 能房
- ・教授(経済学専攻) 前田 高志
- ・准教授(経済学専攻) 木村 史彦
- ・助手(教育研究支援室) <旧資料室> 岩崎 啓子

■平成20年4月1日付採用

- ・教授(経済学専攻) 永野 護
- ・講師(経済学専攻) 木谷 名都子
- ・准教授(環境マネジメント教育研究プロジェクト) 香坂 玲

■平成20年4月1日付昇任

- ・教授(経済学専攻) 准教授より 中山 徳良
- ・教授(経営学専攻) 准教授より 河合 勝彦
- ・准教授(経済学専攻) 講師より 濱口 泰代

【平成21年】

■平成21年3月31日付退職

- ・教授(経済学専攻) 藪内 繁己
 - ・教授(経済学専攻) 下野 恵子
- (次ページへ続く)

支部活動報告

瑞鳳会平成20年度総会・懇親会開催される

平成20年7月18日（金）、豊田市内のレストランで平成20年度総会・懇親会が開催された。本年度は実に10年ぶりとなる経済学部卒の新入会員を迎えて12名の開催となりました。本年度入会者は10名で、うち経済学部3、人文社会学部3、医学部3、薬学部1。上記の結果会員数は73名（経済学部29名）。

総会では、瑞山会よりの支部助成金1万4千5百円が入金されたこと、各学部同窓会の予定紹介等が報告された。とりわけ経済学部の同窓会・瑞山会設立30周年記念の講演会・懇親パーティーについては入念に参加の勧誘が行われました。

懇親会では、当日出席した新入会員（経済卒2、人文社会卒2）は全員女性で、久々に女性を交えて和やかな雰囲気の中で行われた。橋本修君（経済・74年卒）は出向中の豊田スタジアムで9月13・14日開催される“ビーズ”のコンサートの紹介、東京から駆けつけた片山守君（経済・78年卒）は、出向して3度目の勤務先であるトヨタアドミニスタ株式会社の状況報告、吉田晴秀君（経済・86年卒）は、ハイブリッド車の心臓部に当たるバッテリーの製造会社パナソニック・EV・エナジー株式会社の躍進ぶりの紹介があった。新入会員はまだ職場に配属されたばかりであるがその職場の紹介があった。垣見恵さん（経済・岡田ゼミ）はグローバル営業企画部、野々山実希さん（経済・木村ゼミ）は関連事業部、天野里奈さん（人文社会）は海外部品用品部、大内祥子さん（人文社会）

はエンジン統括部。【欠席者では山本有紀さん（経済）は法務部、福井博子さん（人文社会）はレクサス営業企画部。】希望に燃えた新人の健やかな成長を支援する激励が先輩から投げかけられました。

最近の挨拶では「何とんでも後輩をトヨタ自動車に入社させよう」が常套句であった水谷良明代表（経済・70年卒）もこの日は満面の笑みで新人を歓迎する挨拶をされました。今回は幹事としてはじめて企画をした小嶋賢治君（経済・87年卒）の会場設定等の采配のもと有意義なひと時となりました。

（6期生・73年卒 村井清）

支部結成、活動の際には瑞山会より助成金が出ます。
（申請が必要です。詳しくはお問い合わせ下さい。）
また同窓会ホームページでは支部活動や催事の模様が写真入りで御覧になれますので是非アクセスをしてください。

【学部人事異動】 7ページからの続き

■平成21年4月1日付採用

- ・教授（経済学専攻） 焼田 党
- ・講師（経営学専攻） 坂和 秀晃

■平成21年4月1日付昇任

- ・教授（経済学専攻）准教授より 田中 彰
- ・准教授（経済学専攻）講師より 藤田 菜々子

< 事業部だより >

平成20年は、4月6日に山崎川花見散策と茶会が名市大薬学部同窓会館薬友会館を利用して行われました。昨年は名古屋の開花宣言が3月22日でしたので、花見ができるのかやきもきしていましたが、その後寒冷な日が続き最高の花見日和となりました。例によって山崎川は大勢の人々でにぎわっていました。絶好のロケーションで花見、お茶、お酒と楽しめますので、もっと沢山の皆様が顔を出してくれるのを期待します。平成21年は4月4日開催です。

4月12日には、第51回瑞山会ゴルフコンペがナガシマCCにて行われました。今回は参加者が少なく、6組24名での大会でした。優勝西野宏氏（3期生）、準優勝寺田秀正氏（1期生）でした。

5月11日には、硬式テニス大会が経済学部山の畑のコートで行われました。例年は5月3日に開催していましたが、ゴールデンウィークの真ん中にあたるためスケジュールの調整のつかない人たちがいるから今回から変更としました。晴天に恵まれ絶好のテニス日和でしたが、予想に反し参加者が少なく盛り上がりにはイマイチでした。平成21年は5月10日開催です。

9月7日は、名市大キャンパス内にてバーベキュー大会が行われました。晴天のため汗ばむほどの陽気で、火起こしは大変でした。昨年より多くの食料を用意しましたが、全てなくなるほどの盛況振りでした。医学部からは青山光子名誉教授、薬学部からは榎原仁作薬学部同窓会長、内田一枝副会長も参加頂き楽しいひと時でした。内田様にはいつも事前にビール券を頂戴しご協力いただいています。

10月16日には、貞室CCにて第52回瑞山会ゴルフコンペが開催されました。秋晴れの下、7組27名が参加し楽しく競技しました。1期生から31期生までの参加で親子ほども年齢差があります。優勝は山口廣昭氏（4期生）準優勝は西野宏氏（3期生）でした。次回第53回は平成21年4月11日レイクグリーンCCを予定しています。秋のゴルフコンペは10月24日の予定です。

事業部へのご意見、ご要望等ありましたら、お気軽にご連絡ください。

（事業部長 逸見和弘 TEL052-914-6221 E-Mail hem3@r3.dion.ne.jp）